人間社会学部・研究科　2014（平成 26）年度 FD 活動報告

FD 実施組織体制の整備

１) 学部・大学院 FD 部会
人間社会学部・研究科の教育運営委員会にて FD 関連議事を協議
（学部 FD 委員、大学院 FD 委員、各学科 FD 兼担教育運営委員）

２) 学部・大学院 FD カンファレンスの開催
FD カンファレンス（学部、大学院全教員対象）
卒業生アンケートと在校生アンケートの集計結果の共有　2014 年 6 月 26 日
各科目の GPC の共有、院生の授業改善要望の共有、ＦＤ年間活動の報告と計画の共有、研究行為の公正についての研修　2015 年 2 月 26 日

2014 年度実施内容

３）ピア授業参観　例年のような「ピア参観促進週間」を設けず、大学院オムニバス授業を中心に参観実施を呼びかけた（年間）。
〇参観実施が年間で 1 ケタと極端に少なかった。今後参観数増を目標にするかどうかも含めて、再考したい。

４）TA 研修の実施　（各専攻科）
〇3 専攻をあわせて前期に 26 件、後期に 15 件の TA 研修（授業の参観、レポートの提出）を行なった。
〇これは、研修報告者の名前を伏せて、授業担当者にフィードバックし、授業改善に役立てている点で、教員の FD である。同時に TA 担当の院生にとっての未来の職業研修でもあると考えて、研究科としての実施に意義を見ている。

５）教育改善のための学生アンケート（学部）
〇全学の授業アンケート（前・後期、ウェブサイトを使用したもの）
学部科目について、前期は約 80 科目、後期は受講申請者 10 人以上の 5 科目のみで実施。
〇卒業予定者アンケート（2014 年 12 月 22 日、2015 年 1 月 19 日）
全学アンケートに付加して、人間社会学部の募集停止、学域制出発についての意見、感想を書く自由記述欄を設けた。
〇学部満足度アンケート（2014 年 5 月に実施。25 年度 3 年生が対象）。学生数が少なくなり、2013 年度は学部登校日実施をしなかったため、2014 年度春に実施した。

６）教育改善のための学生アンケート（院生）
〇2015 年 2 月に前期、後期課程学生を対象に研究科として院生協議会に依頼して、アンケートを実施した。
〇2015 年 1 月前期課程修了予定者を対象に、全学アンケートを実施した。

７）後期課程修了者アンケート
〇学位取得者に、学位論文の構想、執筆ほかの経験を書いてもらい、後期課程在学生に配付した。

８）大学院指導に関わる整備（大学院）

○成績評価基準の明確化のために、2015 年度より全科目シラバスに基準を記載することを決めた。
○前期課程研究科共通科目「コミュニケーション・デザイン特論」を時間的に受講しにくい社会人学生の意見を入れて、曜コマをずらして別クラスを開講した。
○博士後期課程での指導体制整備のために副指導教員制を開始し、年度中に改善検討を行なった。結果、すべての後期課程学生に副指導教員をつけること、休学者についても副指導教員をつけることを決めた。

9）キャンパス・ハラスメント・アンケートの実施
○10 月に学部生、院生を対象に実施した。現在集計、分析中。

人間社会学部・研究科　2015（平成 27）年度 FD 活動計画

FD 実施組織体制の更なる整備

1）学部・大学院 FD 部会：定例開催と FD 活動に関する計画と実施に関する共有。
（学部 FD 委員、大学院 FD 委員、各学科 FD 兼担教育運営委員）
2）学部・大学院 FD カンファレンスの開催
（学部・大学院全教員対象）
学生アンケート結果の分析と課題の共有
成績評価の改善（GPC 共有）
FD 活動の総括・方針の協議
ＦＤに関する研修

2015 年度実施計画（スケジュールは暫定）

3）ピア授業参観、あるいはそれに代わる授業改善のための FD 活動

4）TA 研修の実施　（前・後期とも実施）

5）教育改善のための学生アンケート（学部）
○全学の授業アンケート（前・後期、大学ウェブサイトを使用）は、在学生が少ないので、学部生については実施しない。
○全学の卒業予定者アンケート（紙ベース）

6）カリキュラム改善の検討
○大学院カリキュラム（授業科目構成・コース編成）の改善
2016 年度出発の人間社会システム科学研究科に備えて、既存 3 専攻も授業科目構成などについて検討し、充実化をはかる。

7）授業改善のための取り組み（学部教育の総括、大学院教育のこれからのために）
○留年生のためとなる学部教育についても、終始の授業改善を検討。
○大学院教育向上のための種々の取り組み。特に成績評価基準の明確化と、研究倫理教育の充実を検討。
○全学的な大学院共通科目についての検討。
その他、各学科・専攻による独自の取り組みなど